令和8年度『全国学力・学習状況調査』
座間市立小・中学校全体の結果と傾向

国語・算数・数学・英語・児童生徒質問調査からみた傾向

座間市教育委員会

令和8年11月

小学校　国語　　令和8年度全国学力・学習状況調査

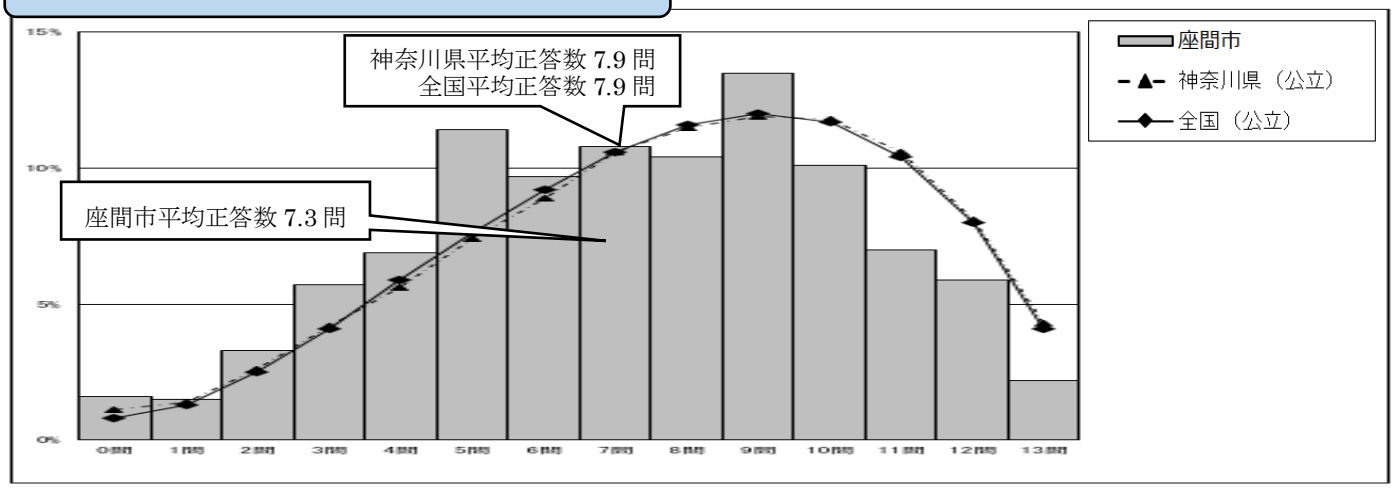
分類・区分別平均正答率

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
				座間市	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体			13	56	61	60.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	61.3	65.2	66.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	47.4	53.3	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	61.9	66.9	65.8
		B　書くこと	2	42.7	46.3	45.7
		C　読むこと	2	57.2	66.2	65.9
評価の観点		知識・技能	6	56.7	61.2	62.0
		思考・判断・表現	7	55.1	60.8	60.1
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	57.9	63.1	61.9
		短答式	2	56.1	59.6	62.6
		記述式	2	46.0	53.1	54.9

・各領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の中では、特に「読むこと」の正答率が全国より下回っています。

・問題形式では、特に短答式、記述式の正答率が全国より下回っています。

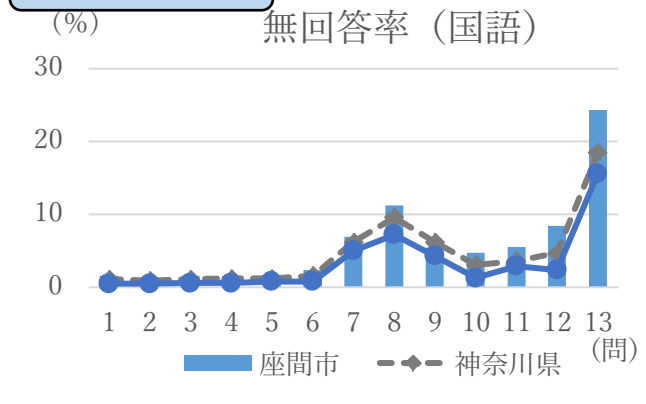
正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：割合）

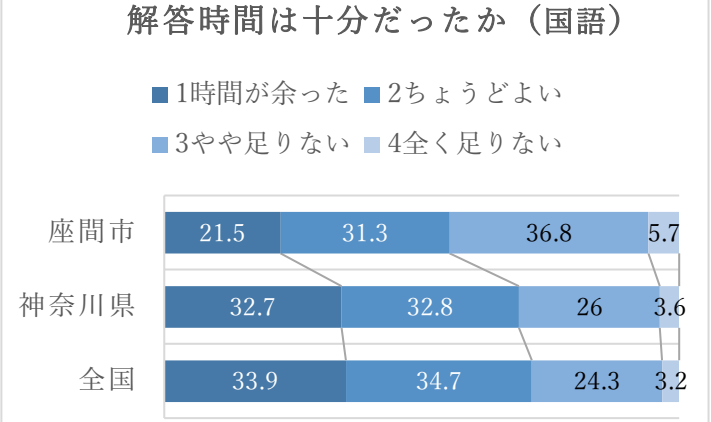


・10 問以上正答した児童数の割合が県、全国と比べて低いです。

・正答数が7問以下の児童数の割合が県、全国と比べて高いです。

無回答率グラフ





13問目の問題は、県・全国と比べて特に無回答率が高くなっています。これは、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題でした。質問調査「解答時間は十分だったか」で「足りない」と回答した児童が多いことを合わせて考えると、最後まで問題を解き切れていない児童が多いことが推測されます。

回答率は高いが正答率が低い問題の例

四　花山さんは、【集めた情報】をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを【花山さんの文章の続き】に書いています。あなたが花山さんなら、［　　］に入る内容を、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【花山さんの文章の続き】

4　すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごすことができそうだ。

また、［　　］

5　終わりに

これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

（参考文けん）

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

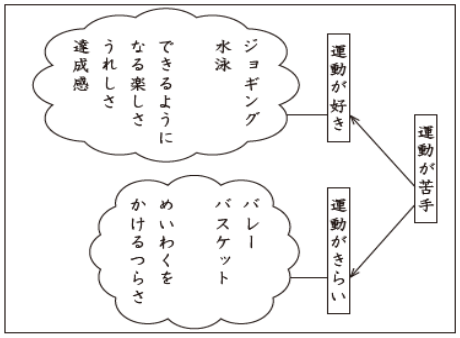
設問2（四）

趣旨

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかみる

二　林さんは、【文章】を読んで、筆者の考えを理解するために、――部①、②、③について【林さんのメモ】のように整理しました。林さんはどのように整理しましたか。その説明として最も適切なものを、下の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【林さんのメモ】



1　「苦手」を「好き」と「きらい」の場合に矢印で分けて、筆者の経験したことと結び付けて整理している。

2　「苦手」を「好き」と「きらい」の場合に矢印で分けて、自分の経験したことと結び付けて整理している。

3　「苦手」、「好き」、「きらい」の順に矢印でつなげて、筆者の経験したことと結び付けて整理している。

4　「苦手」、「好き」、「きらい」の順に矢印でつなげて、自分の経験したことと結び付けて整理している。

設問3ニ

趣旨

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる

分析結果

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。また、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題があります。

指導改善のポイント

〇引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

「読み手に納得してもらうために、自分の考えの根拠となる客観的なデータや事例を示したい。」など、書き手である児童が引用する目的を自覚し、それを教師は児童と共有しておくことが大切です。また、学級全体で引用する目的や引用するときに大事なことについてまとめ、児童が適宜、振り返ることができるように手立てを講じることも大切です。

〇情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う

文章を理解するために必要だと判断した複数の語句を丸や四角で囲んだり、関係する語句と語句とを線でつないだりするなど、目的に応じて、図示しながら情報を整理するよう指導することが効果的です。

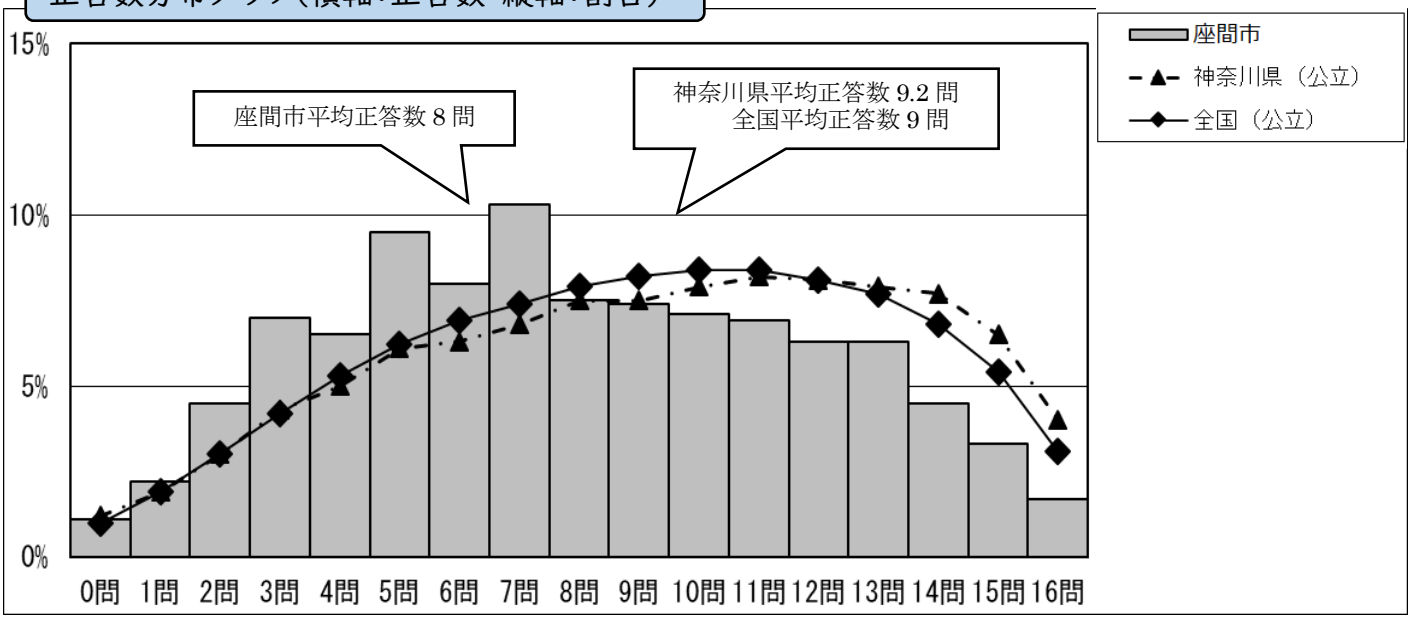
分類・区分別平均正答率

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
			座間市	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体		16	50	58	56.4
学習指導要領の領域	A　数と計算	8	53.9	62.6	61.1
	B　図形	4	48.6	57.0	55.3
	C　測定	1	73.3	79.7	78.1
	C　変化と関係	3	34.9	44.2	41.1
	D　データの活用	4	43.1	49.4	48.6
問題形式	選択式	5	49.2	57.5	56.0
	短答式	8	53.4	61.2	59.7
	記述式	3	40.9	48.9	48.5

・各領域の中では、特に「数と計算」「変化と関係」の正答率が全国より下回っています。

・問題形式では、特に記述式の正答率が全国より下回っています。

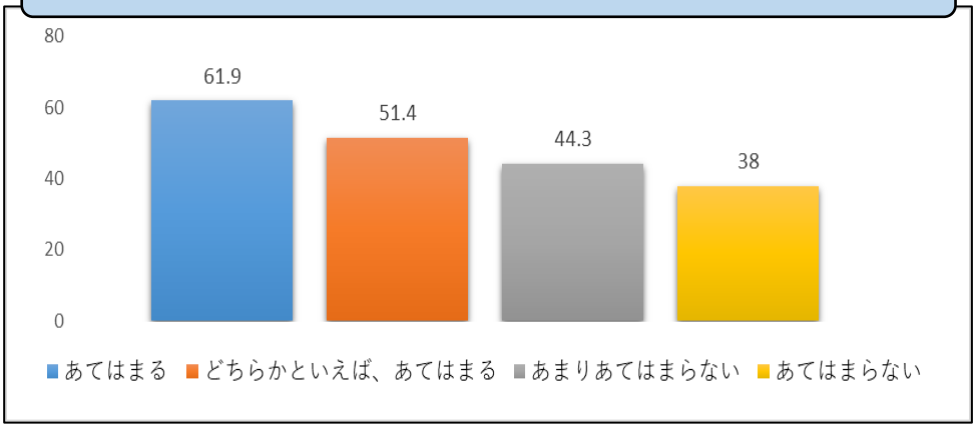
正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：割合）



・10問以上正答した児童数の割合が県、全国と比べて低いです。

・正答数が半分以下（0～7問）の児童数の割合が県、全国と比べて高いです。

考えたことを説明する活動をよく行っていたか×正答率（%）のクロス集計



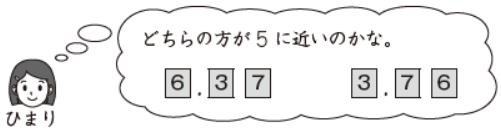
算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていたと回答した児童ほど、正答率が高くなっていることがわかります。授業の中で、考えたことを説明する時間をとることが大切です。

全国の正答率を下回った問題の例

(2) たいがさんたちは、【ルール2】で遊ぶことにしました。

【ルール2】
①引いたカード3枚すべてを、□に当てはめて小数をつくります。
□.□□
②5に近い数をつくった方が、勝ちです。

ひまりさんは、3 6 7 を引きました。



6.37と3.76のどちらの方が5に近いかを調べるために、下の㋐と㋑のひき算をします。
それぞれの計算の答えを書きましょう。

㋐ 6.37 − 5
㋑ 5 − 3.76

設問3(2)趣旨
整数と小数の減法の計算をすることができるかどうかをみる。

(3) たいがさんたちは、【ルール3】で遊ぶことにしました。

【ルール3】
①引いたカード3枚のうち、2枚を□に当てはめて分数をつくります。
$\frac{\square}{\square}$
②大きい数をつくった方が、勝ちです。

たいがさんは、3 4 7 を引きました。



$\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ では、どちらの方が大きいですか。下の ア から ウ までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。
また、その記号を選んだわけを、数や言葉を使って書きましょう。

ア $\frac{7}{3}$ の方が大きい。
イ $\frac{7}{4}$ の方が大きい。
ウ $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ の大きさは等しい。

設問3(3)趣旨
異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

分析結果

・整数と小数の減法の計算をすることに課題が見られました。
・異分母の分数の大小を判断し、その理由を記述することに課題が見られました。

指導改善のポイント

○小数の加法及び減法の計算は、整数と同じ原理、手順でできることを理解できるようにするために

指導に当たっては、小数の加法及び減法の計算の仕方を考える活動が考えられます。その際、小数の加法及び減法は、小数の仕組みの理解に基づき、整数と同じ原理、手順でできることを理解できるようにすることが大切です。

○異分母の分数の大小を判断できるようにするために

分数の意味や表し方に基づいて、異分母の分数の大小を判断できるようにすることが重要です。その際、既習の幾つかの方法で分数の大小を比べることができるようにすることが大切です。

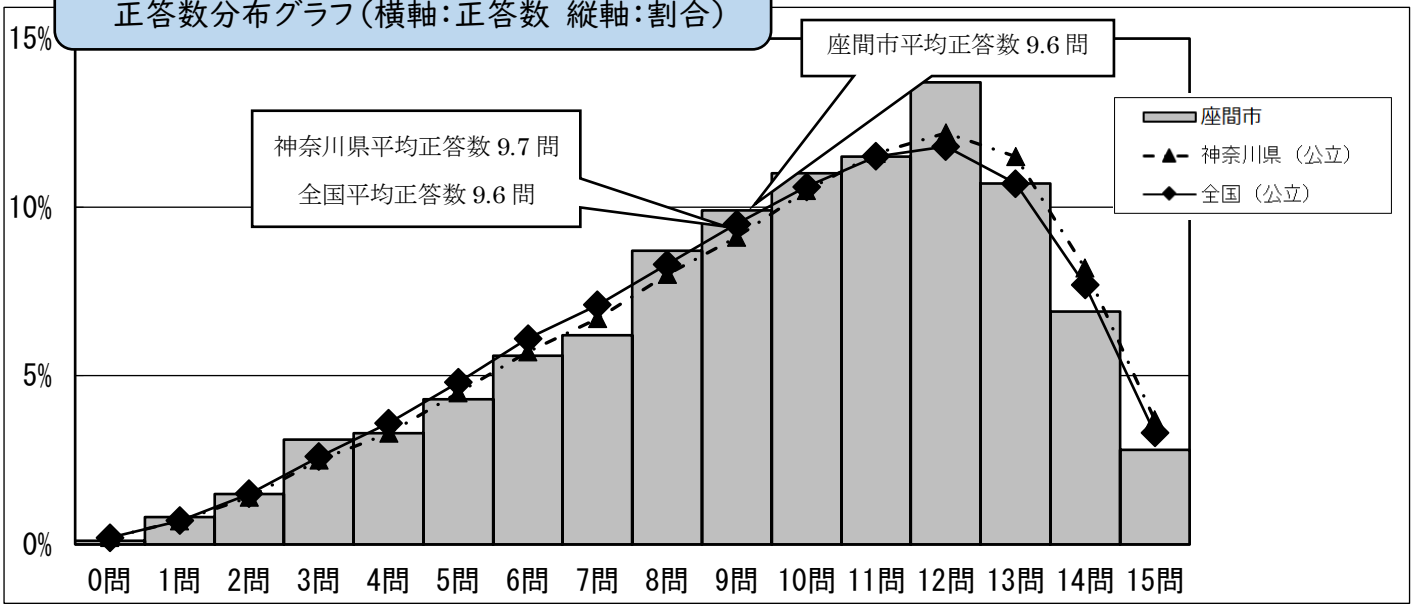
分類・区分別平均正答率

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
				座間市	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体			15	64	65	63.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	63.0	63.6	63.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	67.7	72.7	70.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	62.8	64.8	63.9
		B 書くこと	3	68.7	68.1	67.4
		C 読むこと	3	61.2	61.5	59.7
評価の観点		知識・技能	6	63.8	65.2	64.2
		思考・判断・表現	9	64.2	64.8	63.7
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	73.1	74.2	72.7
		短答式	3	55.5	55.8	55.8
		記述式	3	45.3	46.2	45.5

・各領域の「書くこと」については、全国・県より平均正答率が上回っています。

・問題形式では、記述式の平均正答率が全国・県より下回っています。

正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：割合）



・座間市の平均正答数は、全国と同じ 9.6問です。

無回答率グラフ



無回答率が最も高かったのが、問 13 で 15.8%でした。これは語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる問いでした。次に多かったのが問 15 で 14.8%でした。課題が見られた問題として掲載しています。どちらも正答率は低く 30%台でした。

正答率が高かった問題

二　石井さんは、【石井さんが書いている随筆】の――線部「私の気持ちもどんどん明るくなって、［　　］ペダルをこいだ。」の［　　］について、どんどん明るくなった私の気持ちがより伝わるように、表現を工夫しようとしています。あなたならどのように書きますか。［　　］に「どんどん」、「明るく〈なって〉」以外の言葉を入れて、文を完成させなさい。

設問三　問二
表現の効果を考えて描写することができるかをみる。

課題が見られた問題

四　林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、〈具体的な場面〉を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、〈例文1〉と〈例文2〉を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈具体的な場面〉



〈例文1〉〈擬態語を使っていない例文〉
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文2〉〈擬態語を使った例文〉
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

条件1　〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。
条件2　条件1で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

設問四　問四
文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかをみる。

分析結果

・気持ちがより伝わるように、表現の効果を考えて描写することができています。

・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題があります。

指導改善のポイント

〇文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするためには

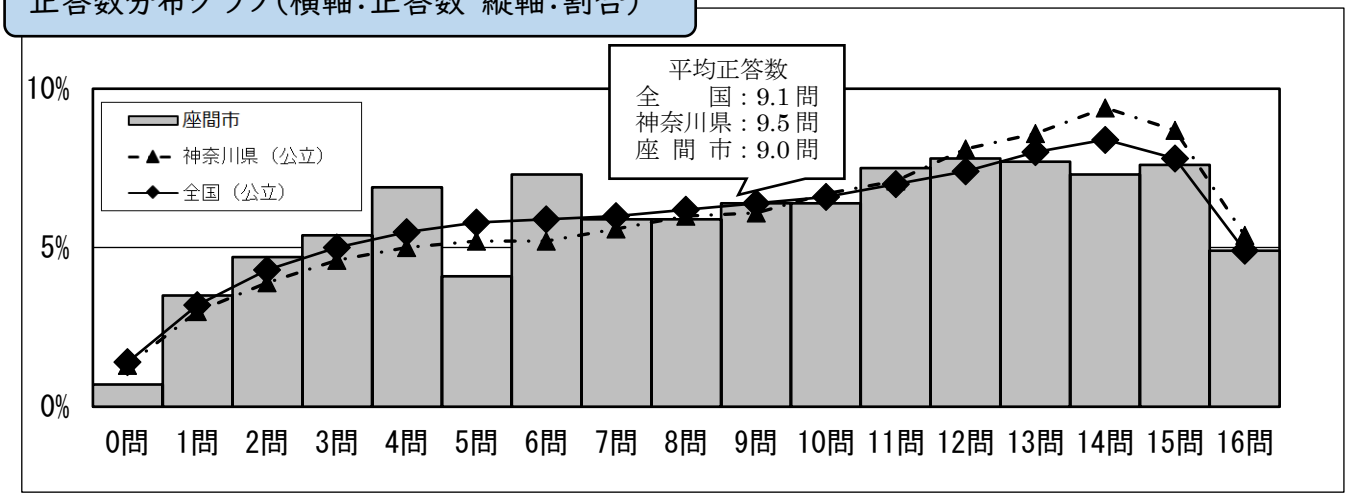
文章を読んで自分の考えを確かなものにするためには、具体的な場面を思い浮かべ、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことと結び付けるなどして、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることなどが考えられます。その際、文章に書かれている大まかな内容について自分の考えを述べることにとどまるのではなく、自分がその文章の内容についてどのように把握したり解釈したりしたかを十分に踏まえ、それを常に確かめながら考えを形成させていくよう指導することが大切です。

分類・区分別平均正答率

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体		16	56	59	57.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	68.3	69.5	67.8
	B 図形	4	49.3	53.1	48.7
	C 関数	3	52.7	55.3	54.8
	D データの活用	4	51.5	55.4	53.5
問題形式	選択式	3	58.7	60.9	59.3
	短答式	9	64.1	66.5	64.2
	記述式	4	37.4	41.4	39.1

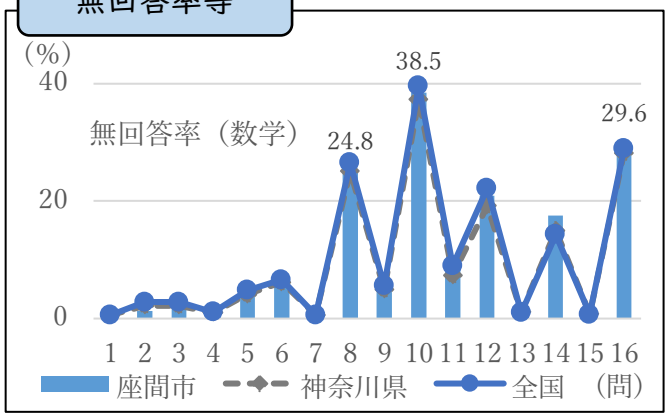
・各領域の中では、「図形」の正答率は全国を上回っていますが、「関数」「データの活用」の正答率が全国より下回っています。
・問題形式では、特に記述式の正答率が全国より下回っています。

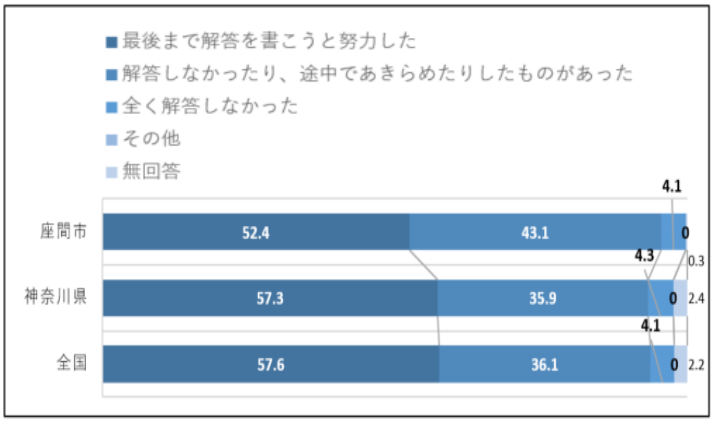
正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



・16問正答した生徒数の割合は県、全国と大きな相違はありませんでした。また、全体的な正答数についても、多少のばらつきが見られますが、県・全国に比べあまり大きな相違がありませんでした。

無回答率等





・説明する問題8,10,16は、県・全国と同様に無回答率が高くなっています。
・また、質問調査では、「言葉や数、式を使って説明する問題」に対して、最後まで書こうと努力した生徒の割合が県や全国よりも下回っています。

課題が見られた問題の例

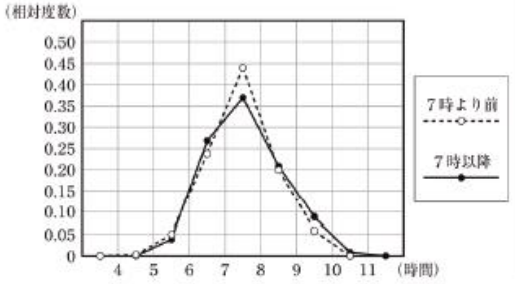
（3）二人は、睡眠時間の特徴をさらに知りたいと思い、全校生徒を次のように分け、睡眠時間の分布の傾向を調べることにしました。

桃音さん…起床時刻が7時より前と7時以降の生徒に分ける
悠真さん…就寝時刻が23時より前と23時以降の生徒に分ける

桃音さんは、起床時刻で分けた場合について、各階級の相対度数を求めて度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。

桃音さんが調べたこと

起床時刻が7時より前の生徒…211人
起床時刻が7時以降の生徒……89人



桃音さんは、上の2つの度数分布多角形を比較して、次のようにまとめました。

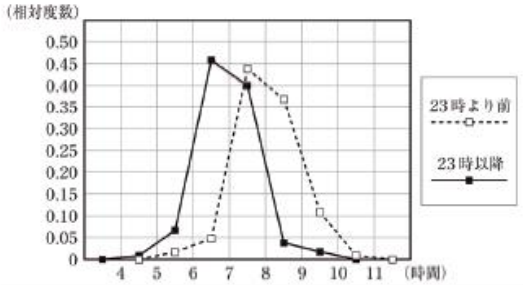
桃音さんのまとめ

2つの度数分布多角形は同じような形である。また、2つの度数分布多角形はほぼ同じ位置にある。
したがって、起床時刻が7時より前の生徒と7時以降の生徒の睡眠時間は同じような傾向にある。

悠真さんは、就寝時刻で分けた場合について、各階級の相対度数を求めて度数分布多角形に表しました。

悠真さんが調べたこと

就寝時刻が23時より前の生徒…152人
就寝時刻が23時以降の生徒……148人



悠真さんが調べたことの2つの度数分布多角形を比較すると、「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、**悠真さんが調べたこと**の2つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明します。前ページの**桃音さんのまとめ**を参考にして、下の**説明**を完成しなさい。

説明

（　　）

したがって、就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある。

設問 9(3)
趣旨 データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる

分析結果

・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することに課題があることがわかりました。

指導改善のポイント

○データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにするために

二つの集団のデータの分布の傾向を比較してその特徴を捉え、数学的な表現を用いて説明する活動を取り入れることが大切です。その際、二つの度数分布多角形の形や位置関係に着目して、それらの分布の特徴について話し合う場面を設定し、根拠が十分であるか検討することや、最大値や最小値、度数分布多角形の山の頂点の位置等、様々な特徴を基に判断の理由を説明できるようにすることも大切です。

IRT とは

IRT（Item Response Theory，項目反応理論）とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。国際的な学力調査（PISA、TIMSS など）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFL など）で採用されているテスト理論であり、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できます。

平均 IRT スコア

「中学校英語」の結果を、各学校、教育委員会、都道府県ごとに IRT に基づいて算出し、全国平均を 500 を基準とした IRT スコアで表示しています。

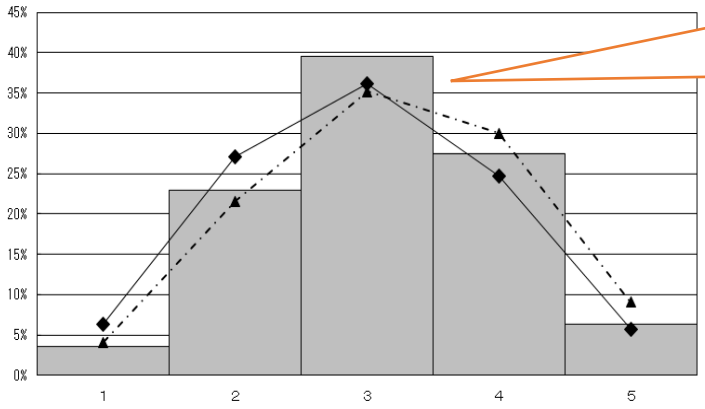
座間市	５１４
神奈川県	５２４
全国	４９９

本市の平均 IRT スコアは、全国と比較すると１５ポイント上回っています。

IRT バンド

「中学校英語」の個人の結果は、５段階の IRT バンドで表示・返却し、全国平均が３で、５が最も高いバンドとなります。各生徒に対して出題された問題の正誤状況に基づき総合的に推定されるもので、学習評価で用いる評定とは異なります。

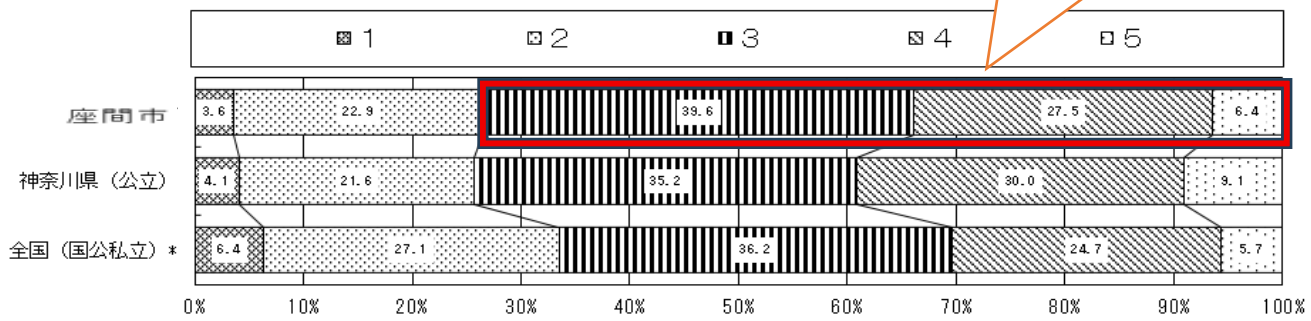
【IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド　縦軸：割合)】



本市の IRT バンドの分布から、全国平均である IRT バンド３に属する生徒の割合が高いことがわかります。

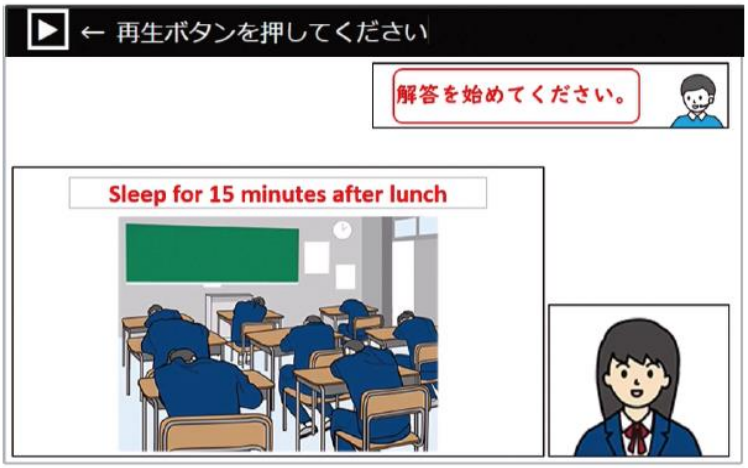
本市の生徒の約７０％が、IRT バンド３以上に属しており、全国より高いことがわかります。

【IRT バンド分布比較】



課題が見られた問題

＜問題文＞
あなたは、英語の授業で、オンライン交流をしている中学生のかおりと「学校生活をよりよくする方法」について話し合っています。発表を聞き、かおりの意見に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で答えましょう。【考える時間１分　解答時間 30 秒】



設問１９
　社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができているかどうかをみる問題

分析結果

　学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す本問では、社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに課題があります。正答率は２４．７％で、他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型３の反応率が、23.３％、解答類型７の反応率が２０．７％、無解答の反応率が１９.0%と高くなっています。

　解答類型３に該当する生徒は、かおりの意見に対する自分の考えを話すことはできていますが、その理由を話すことはできていません。 解答類型７に該当する生徒は、かおりの意見に対する自分の考えとその理由を話すことができていません。音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられます。

（正答の条件）
次の条件を満たして解答している。
条件① 話し手の意見に対する自分の考えを話している。
条件② 条件①の理由を話している。

正答		解　答　類　型	反応率 %
◎	1	条件①、条件②を満たして解答しているもの	17.1
○	2	文法事項などに誤りがあるが、条件①、条件②を満たして解答しているもの ※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す	7.6
	3	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	23.3
	4	条件①を満たし、条件②に関する発話がないもの	4.8
	5	条件①を満たしていないが、条件②を満たして解答しているもの	5.1
	6	条件①に関する発話はないが、条件②を満たして解答しているもの	0.5
	7	条件①、条件②を満たさないで解答しているもの	20.7
	99	上記以外の解答	1.8
	0	無回答	19

指導改善のポイント

〇話す内容が思い浮かぶように、自分の考えと理由を整理し、伝えられるようにするために

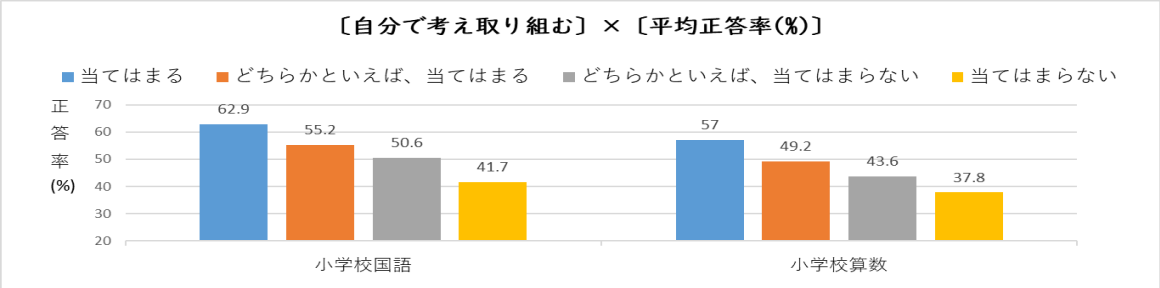
　聞き取った内容についてのメモに、賛否などの自分の考えやその理由を書き足したり、それらを線で結んだりするなどして自分の考えを整理できるように指導することが大切です。聞いて得た知識や情報のメモを基に、内容を口頭で要約して伝えたり、自分が一番印象に残った内容や興味をもった情報を伝えたりする活動が大切です。また、聞いたことについてなぜそのように考えたのか、感じたのか、簡単な理由や根拠、例示などを伝えたり質問したりする活動を設定することが考えられます。

小・中学校【児童生徒質問から見た傾向】

主体的・対話的で深い学び、協働的な学び

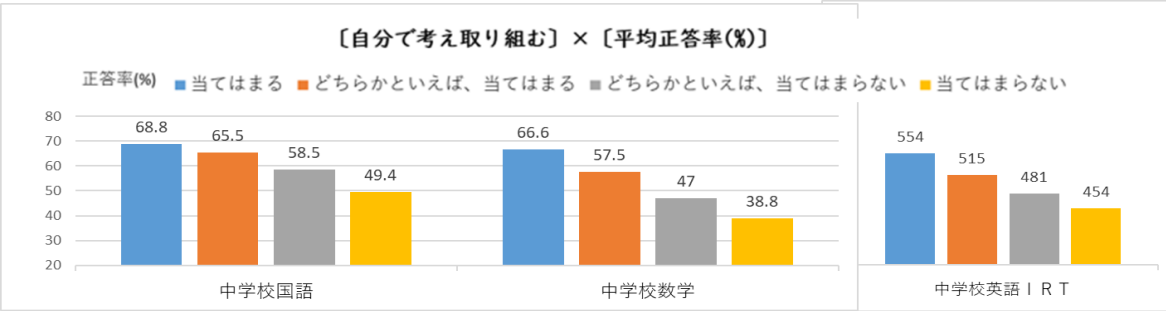
質問㊴（小学校）５年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

＜質問㊴「自分で考え、取り組むこと」（小学校）と教科の平均正答率（%）とのクロス集計＞



質問㊴（中学校）１,２年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

＜質問㊴「自分で考え、取り組むこと」（中学校）と教科の平均正答率(%)とのクロス集計＞



２つのクロス集計の結果から、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことは、児童生徒の学力と相関関係があることがわかります。児童生徒が課題解決に主体的に取り組み、自分の学びを見直し、次の課題を見つけ取り組むことで、より深い理解につながると考えられます。

★★学びの充実・改善のために★★

学校では、校内研究や研修等を通して、児童生徒が主体となる学びに向けた授業改善に取り組んでいきます。

■自ら課題を見つけ、情報を収集しながら解決策を考える活動に取り組みます。

■児童生徒が自己選択、自己決定できるような場面を設けます。

■自分の学びを振り返り、学習を調整することができるようにします。

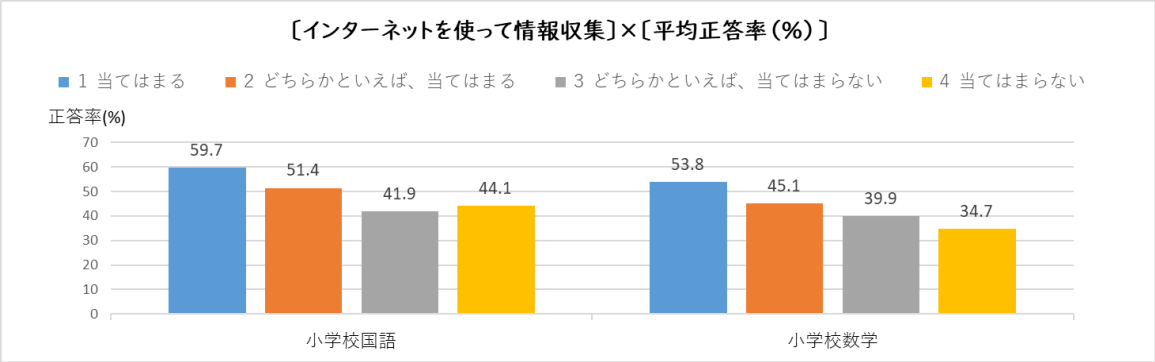
■課題解決のために、どのように学んだら良いのか、自分にあった学び方はなにかなど、学ぶ方法も身につけられるようにします。

保護者の皆様には、家庭でも子どもたちが自分でじっくり考え、自分で取り組むことができる機会をもつことの大切さをご理解いただき、子どものことを**すぐに手伝うのではなく温かく見守り、失敗したときには励まし、解決策を考え、次に挑戦していけるよう声かけ**していただければと思います。

ICT 機器の活用

質問㊱2　（小学校）あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。

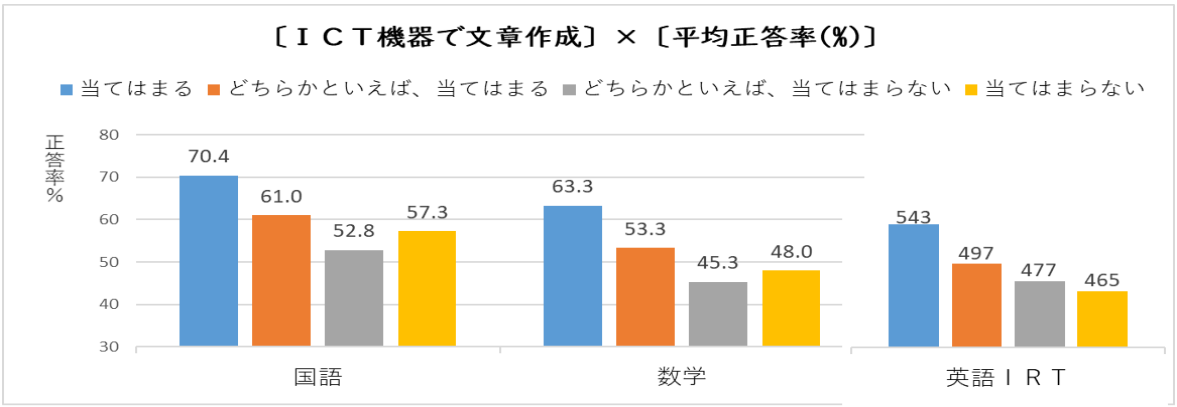
＜質問㊱-2「インターネットを使って情報収集」と教科の平均正答率(%)とのクロス集計＞



インターネットを使って情報収集できると思うと答えた児童のほうが正答率が高いことがわかります。インターネットを使って情報を収集することは、児童の知的好奇心を高め、理解を深め、表現力を向上させるなど、学力向上に貢献する可能性があります。

質問㊱1　（中学校）あなたは自分が PC・タブレットなどのＩＣＴ機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。

＜質問㊱-1「ＩＣＴ機器で文章作成」と教科の平均正答率(%)とのクロス集計＞



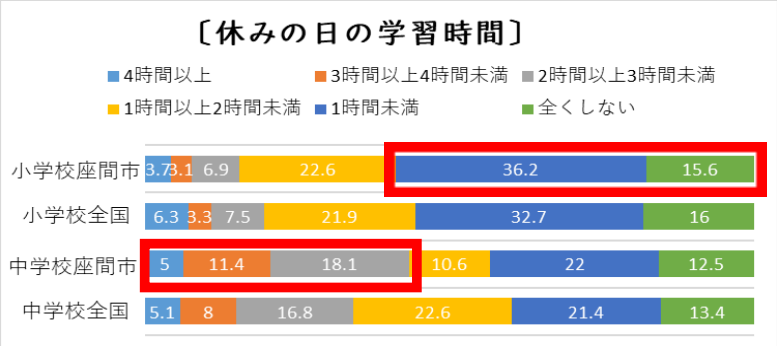
ICT機器を使って文章を作成することができると回答している生徒は、正答率が高いことがわかります。目的意識を持ってICT機器を活用することが学力向上の鍵になると考えます。

★★ここが大切★★

ここで取り上げた項目以外のICT活用についての質問でも、ICT機器を利活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られます。ICT機器の活用は、個別最適な学習機会の提供や学習時間、場所の工夫により、児童生徒の学習意欲や学力の向上に貢献することや、児童生徒が主体的に探求し、理解を深めることができると考えます。ICT機器の効果的な利活用が、学びの一層の充実につながっています。学校と家庭との連携も大切にして、適切な活用ができるようにしていきましょう。

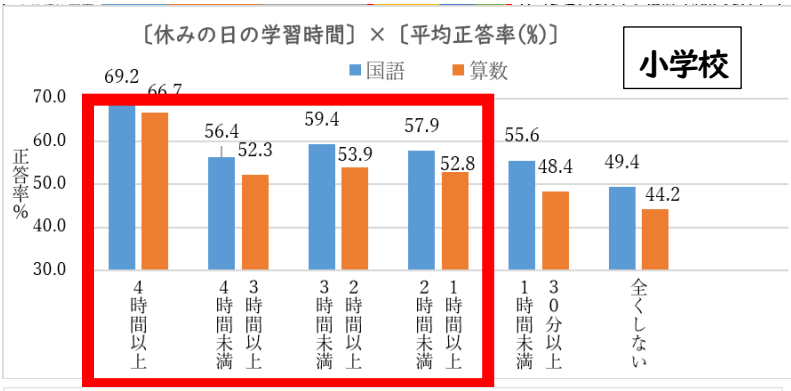
学習習慣

質問㉕ 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

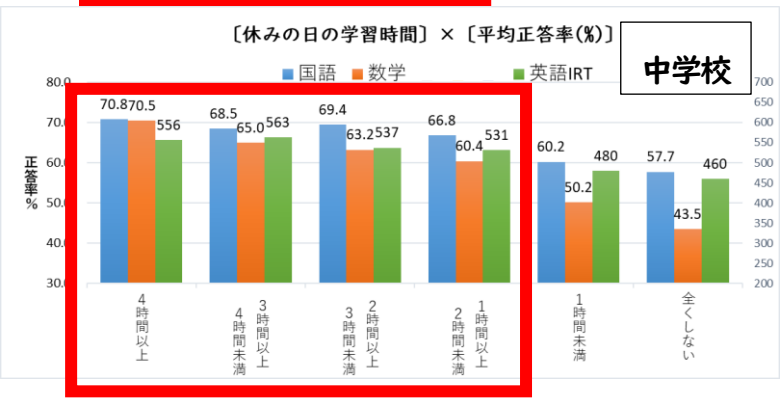


小学校では、休みの日の学習時間が１時間未満の割合が51.8%であり、全国より高くなっています。
中学校では、休みの日の学習時間が２時間以上の割合が34.5%であり、全国を上回っています。

＜質問㉕休日学習時間と教科の平均正答率(%)とのクロス集計＞



学校が休みの日の学習時間が１時間未満の児童は、正答率が低い傾向にあり、学習時間が１時間以上の児童の大多数は、市平均（国語 56% 算数 50%）を上回る正答率でした。



学校が休みの日の学習時間が１時間未満の生徒は、正答率が低い傾向にあり、学習時間が１時間以上の生徒は、市平均(国語64% 数学56% 英語514)を上回る正答率でした。

★★ここが大切★★

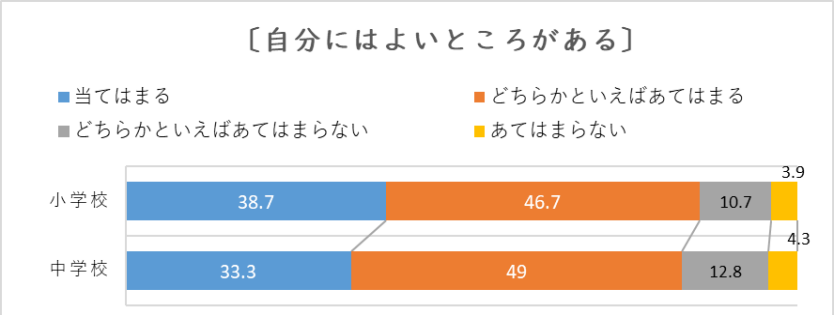
家庭学習の時間の目安について、小学校でよく言われているのは「学年×10分」「学年×10分＋10分」などです。学習時間の長さだけでなく学習内容が大切であることは言うまでもありませんが、まずは、**家庭学習を習慣化することが大切**です。

低学年から少しずつ学習時間を伸ばしていく方が無理なくできますが、**今からでも遅くありません。**子どもと一緒に**学習時間の計画を立て**、毎日少しずつ学習に取り組めるようサポートしていっていただければと思います。**ゲームやスマートフォンの利用時間のルール作りや再確認**も忘れずに行ってください。

また、本や新聞を読むことは、語彙力や読解力が高まるとともに幅広い知識が身につき、他の教科の学習にも良い影響を与えていると考えられます。

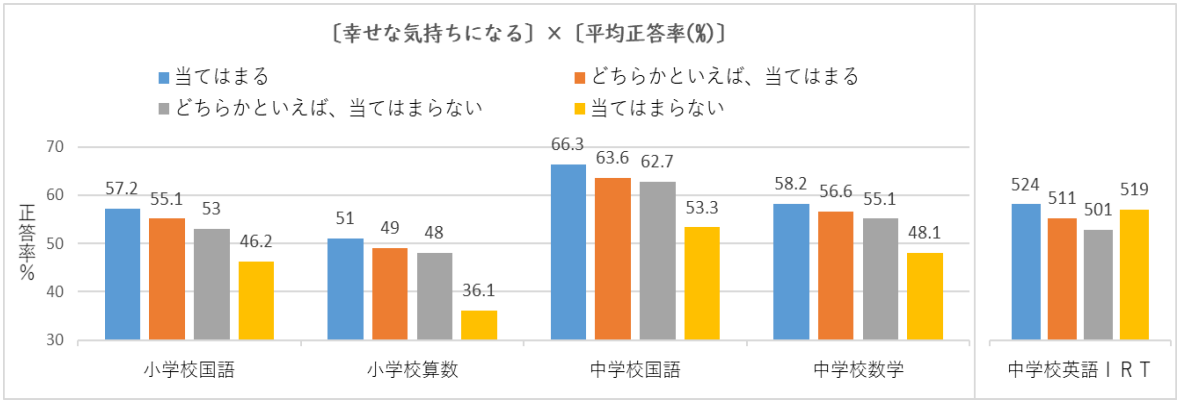
自己肯定感

質問⑧　自分にはよいところがあると思いますか。



質問㉑　普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

＜質問㉑「幸せな気持ちになる」と教科の平均正答率(%)とのクロス集計＞



「あなたにはよいところがあると思う」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校で85.4%、中学校で82.3%でした。

また、小学校でも中学校でも「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはあります」と回答した児童生徒のほうが、正答率が高いことがわかります。

★★ここが大切★★

小学校では、自己肯定感の高い児童は、学習にも前向きに取り組んでいることがうかがえます。自己肯定感が学習意欲や成果に良い影響を与えることを考えると、より多くの児童が自分のよいところを見つけ、肯定的に捉えられるようにすることが大切です。

教師や保護者が児童の努力や成果を具体的に褒め、励ますことで、自己肯定感が育まれ、学習意欲も高まると考えられます。

中学校では、自己肯定感が高い生徒が、必ずしも正答率が高いわけではないという結果でした。中学生は「子ども」から「大人」へ、「家庭」から「社会」へと成長する不安定な時期であり、自己を確立する過程において自己肯定感が下がることも考えられます。**他者との比較ではなく、過去の自分と比べて成長した点を認めたり、結果ではなく努力を褒めたり、ポジティブな声かけ**をすることにより、自己肯定感も高くなり、より学習にも前向きに取り組むことができるのではないでしょうか。

日常の小さな成功体験を積み重ねていくことで、児童生徒一人ひとりが自分に自信を持ち、学習にも積極的に取り組むことができると考えます。

全国学力・学習状況調査の結果×豊かな心を育むひまわりプラン

～～～ご家庭で意識していただきたいこと～～～

★規則正しい生活習慣★

「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけ、規則正しい生活習慣を身につけられるようにしましょう。
生活習慣が整うと、学校での授業にも集中して取り組むことができます。

★家庭学習の習慣★

学校が休みの日の学習時間に関する質問への回答で「まったくしない」と回答している児童・生徒が約14%いました。興味のあることから調べるなど少しずつ学習に取り組む習慣を身につけていきましょう。



家 庭 で は



・お互いにあいさつをしましょう。
・「早寝・早起き・朝ごはん」を
　意識して、生活習慣を整えましょう。
・心にゆとりをもって、会話をする時間を
　つくりましょう。
・家族の一員として、子どもにも役割をもたせましょう。
・善悪の区別をきちんと教えましょう。
・子どものよさを認め、がんばったことをほめましょう。
・感謝の気持ちを伝え合いましょう。







★ICT機器の利用★

情報モラルも含め、スマートフォンやゲーム利用に一定のルールを作ることで、規範意識の向上にもつながります。また、スマートフォンやゲームから目を離し、家庭での会話の時間をつくることも大切にしましょう。

★自己肯定感向上につながる声かけや見守り★

子どもの発達段階に合わせて、子どものよさを認め、ほめる機会をつくり、笑顔で声かけをしたり、温かく見守ったりしていきましょう。
自己肯定感は学習意欲だけでなく、将来への希望や前向きな思考や行動にもつながっていきます。